

道しるべ

社会福祉法人 京都府母子寡婦福祉連合会
 発行責任者 東 美佐子
 〒604-0874 京都市中京区竹屋町通
 烏丸東入る清水町375番地
 京都府立総合社会福祉会館内
 TEL 075-223-1360 FAX 075-950-1503
<http://hitorioya.kyoto/>



新年のごあいさつ

「未来に向かって」

社会福祉法人 京都府母子寡婦福祉連合会 会長 東 美佐子



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は台風が何回も上陸し、各地で被害が発生しましたが、自然災害の恐ろしさを身にしみて感じております。被災されました皆様には心よりお見舞い申し上げます。

10月15日の京都府母子寡婦福祉大会には多くの方に参加していただきありがとうございました。母子部を中心に取り組みましたバザーも大会を盛り上げてくれました。又、子どもたちだけの体験発表は初めての試みでしたが、居場所事業に参加して楽しかったこと、学んだこと、関わって下さった先生の熱い思いや、生活環境の変化で進んでいく道すじを決められたこと等立派な発表で感動いたしました。居場所事業が子ども達にとってこの様な形で喜んで頂いていることを聞かせてもらい、携わったスタッフの方々は希望が見えたことでしょう。ひとえに京都府をはじめ関係機関の皆様の支えや協力の賜ではないでしょうか。本当にあり

がとうございます。今後も皆様の教えやお力をお借りして子どもたちの為に母子と寡婦が手を携えて頑張っていきたいと思っております。

昨年の5月に全国の会長や母子部長が東京に集い、「児童扶養手当のまとめ支給はやりくりが難しいので二ヶ月支給を」と声を大にして改善の要望をしました。

そのことが実って繋がり、8月に厚労省から支給方法を見直す方針が発表されました。現行四ヶ月に1度の手当支給を平成31年度から二ヶ月ごとにする考えです。皆様の願いは届いたようです。

「我が幸せは我が手で」をモットーに、皆で励まし、助け合って、お互いの幸せを高められるよう未来に向かって一歩ずつ進みましょう。

最後になりましたが母子寡婦福祉の推進に対する深いご理解と温かいご支援を頂いております山田啓二知事様をはじめ、関係各位の皆様には厚くお礼申し上げます。

会員の皆様にとって平成30年が一步前進の素晴らしい年になりますようお祈りいたします。

平成30年近畿地区母子寡婦福祉研修大会のお知らせ

平成30年度は、京都府が当番団体として「つなごう人の輪、守ろう地域の輪」をテーマに、「近畿地区母子寡婦福祉研修大会」を開催いたします。

会員の皆さんの力を結集して、近畿各地から参加される皆様に温かくお迎えし、京都らしい大会として成功させましょう！

日時 平成30年7月1日(日) 大会 12:00～17:00【予定】
 交流会 18:00～20:00【予定】

会場 【大会】京都テルサ 【交流会】リーガロイヤルホテル京都

日程 開会式、行政説明、研修討議(シンポジウム)、大会決議、大会宣言、交流会

参加者 約860名(近畿各府県及び政令指定都市母子寡婦福祉団体指導者並びに母子寡婦福祉関係者)

会員の皆さんには、多数の御参加と当日の運営に協力をお願いします。





新年のごあいさつ

明日の京都を描くため

京都府知事 山田 啓二

府民の皆さま、あけましておめでと
うございます。

昨年を振り返って

京都府では、林田・荒巻府政以来築き上げてきた社会基盤がいよいよ実を結ぶ時期となりました。昨年4月に新名神高速道路の城陽・八幡京田間が開通し、ついに京都は京丹後市から木津川市まで高速道路によってひとつに繋がりました。

「海の京都」、「森の京都」と続き、昨年は「お茶の京都」事業により、南部地域全体に大変多くの人々が訪れるとともに、北部地域では、美しい絹織物の地「丹後ちりめん回廊」が日本遺産に認定されるなど、観光面でも過去最高の賑わいとなり、府域全体が大きな盛り上がりを見せた一年となりました。

また、文化庁の全面的京都移転も正式に決定、移転場所も府庁の警察本部本館に決まり、名実ともに京都が「文化首都」と位置付けられ、文化芸術立国に向け大きな役割を担うことになった重要な節目の年となりました。

しかしながら一方では、依然、我が国周辺で安全保障について大きな緊迫感が続くとともに、少子高齢化や東京一極集中の加速、子どもの貧困など様々な課題が改めて浮き彫りになった一年でもありました。

未来を切り拓く鍵

こうした背景には、少子高齢化や情報化、国際化の中で、家族形態も含め社会の多様化が進展することに対して、「地域の力」「自治の力」が低下し、旧来の制度や考え方は支えきれない局面が生まれてきたことがあげられると思います。

特に近年では、様々な格差の問題や孤立社会といわれる無関心時代の到来も指摘される中、京都府では、従来から地域力再生を掲げ、地域の絆などの新しい地域づくりの環境・土台を基に、半公半Xの公共員制度や地域の公民の生活機関を集中化したコミュニティコンビニの整備、子ども食堂や居場所づくりのためのこどもの城事業、さらに高齢化時代に医療、介護、福祉を連結させる地域包括ケアの推進、女性活躍から障害のある方の農業分野での活躍を支える農福連携など、幅広く「共生社会」の実現に向け取り組みを進めてまいりました。

新しい時代へ

今年は、「明治」への改元、そして京都府の設置から150

周年にあたります。当時、京都では、多くの人や産業が東京へ移り、3分の1の人口が減少したため、千年にわたって都として栄えた京都は、かつてない大きな危機に直面しました。

そのような激動の時代にあっても、京都府は、日本初の小学校(上京27番組(柳池)小学校)や女学校(新英学校および女紅場)、盲ろう学校(京都盲啞院)の開校、府立医科大学の前身である医学校を療病院に付置、京都大学の前身である第三高等中学校の大阪からの誘致、同志社大学の設置許可など人づくりを中心に府政を進め、さらに琵琶湖疏水の建設や経済界とも連動した京都博覧会の開催で産業の振興を図り、西陣織や茶業など様々な分野で新たな取り組みを進め、京都を復活させました。これが京都府政の原点であります。

そうした先人たちの努力が今日の京都の礎を築いてきたのであり、そこには、どんなに困難なときも未来に投資をして、未来のために現代を生きる京都の気概があります。

この150周年という節目を迎えるにあたり、今の京都の基盤が形作られてきた明治の時代を振り返り、常に先進的な取り組みを続けてきた先人たちの姿勢を受け継いで、新しい人づくりと文化力づくりによって京都の生き方が一層魅力あるものになるように、私たちは全力を挙げなければなりません。

京都には今、年間8,700万人もの観光客が訪れており、世界的にも日本、そして日本文化のふるさと・京都への関心が高まっていますが、2019年から3年連続でラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピック競技大会、ワールドマスターズゲームズ2021関西と大規模な国際大会が開催されます。

この機を捉え、「京都文化力プロジェクト2016-2020」をはじめオール京都で力を合わせ、京都から日本の文化を発信し、大きな交流の渦が巻き起こるよう、全力を傾けてまいりたいと存じます。

人と文化によって地域の資源、歴史、伝統を活かし、人と人とが支え合う共生社会の実現により、地域の力を再び取り戻し、新たな時代を切り拓くため、共に歩んでまいりましょう。

私は、この4月で任期を全うする予定ですが、この一年の、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

お知らせ ひとり親家庭を励ます知事と新入学児童等のつどい

今年も京都府・府母子寡婦福祉連合会・府民生児童委員協議会の共催で、次のとおり開催されます。

知事さんと一緒に親子でゲームを楽しめます。兄弟姉妹も一緒に参加して頂けます。

日時	平成30年3月4日(日) 10:30~14:30【予定】
場所	京都テルサ
参加対象	新入学児童とその親(昨年参加できなかった在学一年生も対象です。)
内容	お祝いの会(知事と一緒に親子でゲーム、記念品のプレゼント) あそびのひろば(こども)、講演会(親)
申込方法	各地域母子会会長あてに申し込んでください。
申込期限	2月9日(金)



『近畿地区母子寡婦福祉研修大会に参加して』

相楽連合むつみ会 渡邊 裕紀子

6月25日(日)平成29年度近畿地区母子寡婦福祉研修大会が堺にて開催されました。今年のスローガンは「支え合い、共に目指そう明るい未来」。研修討議では、各団体から、子ども食堂や学習支援・居場所作りの取り組みが発表されました。また、会員の減少という課題も出てきました。

研修大会の2日後、厚生労働省から最新の貧困率の発表がありました。12年ぶりに貧困率が削減したとのこと。児童扶養手当2人目からの増額や就労支援の拡大など、長年にわたり活動いただいた寡婦の方・母子会の成果だと思えます。しかし、ひとり親世帯の貧困率はまだまだ高いのが現実です。

堺市では、自治体初の子ども食堂が開設されたとのこと。また、後日知ったことですが、明石市では児童扶養手当を毎月支給し、受給者と家計管理を振り返ったりするモデル事業が始まったとのこと。行政機関も子どもの貧困対策において工夫してきていただいています。対策や環境が整っていく中で、子どもやひとり親がそこで得る安心感も大切です。今後も、子ども・大人誰もがやすらぐ居場所づくりを目指し、一步一步進んでいきたいと感じた研修大会でした。



いきいきふれあい事業

『子供の笑顔が私の力』

娘が3歳から「いきいきふれあい事業」に参加をさせて頂いて、いろんな体験をさせて頂きました。当時は3歳という事もあり、人見知りの時期で、周りに迷惑をかけないかなど、心配をしていたのですが、母子会の役員の方々に温かい言葉をかけていただいたりして、親が心配する事などないくらい、すぐに他のお子さん達と仲良くなりました。

日頃は、時間に追われなかなか遠出をすることができない中、バスでの旅行を娘は毎年楽しみにしており、何日も前から笑顔いっぱい「楽しみだね」と云っている娘の顔をみていると私も笑顔になります。その娘も今年10歳になりました。人とのつながりの中で学ぶ事が沢山あると思いますが、人を思う気持ちと、笑顔を忘れずにいる事が、力となり身につくと思います。これからも楽しみに参加させて頂きたいと思えます。ありがとうございました。

福知山市母子寡婦福祉会 大垣 リエ



『中部母子部交流会に参加して』

綾部市母子寡婦福祉会 一会員

9月9日(土)中部母子部交流会に参加してきました。前半は綾部のゆるキャラ「まゆピー」の元にもなっている、繭を使ったまゆストラップ作りを体験！繭を斜めにカッターで切り、片方をくるりと回してつなぎ合わせると、なんとハートの形が作れるんです！ストラップ部分には好みのピーズを通し、可愛らしい作品が出来上がりました♪小学3年生の娘ひとりで出来るかな？と心配でしたが、この日初めて出会った同士の女の子達が優しく教え合う、微笑ましい光景を見ることができました。

後半には体を動かすエクササイズ、そしてお茶菓子を頂きながら、母親同士、色々なお話をしました。必要な情報は自ら行動して得る事！と、決意を新たに1日でした。



『南部母子部交流会に参加して』

相楽連合むつみ会 平野 朝子

6月18日(日)に総合野外活動センターアクトパル宇治で南部母子部交流会が開催されました。

午前は親子での野外調理で、焼きそばやおにぎりを作りました。青空の下、みんなで作ったお昼ご飯は特別おいしかったです。みんな好き嫌いせず、たくさん食べていました。

また、近くには川で遊べる場所やアスレチックもありました。自然の中で、体を使って思い切り遊べたのでこども達はとても楽しそうでした。

午後からは、こどもが工作でうちわや木工でちえの輪を作っている間、親の集まりでは意見交流会がありました。普段お会いする機会がない他の支会の方ともお話をすることが出来て、充実した時間が過ごせました。親子で楽しい1日でした。ありがとうございました。



平成29年度 京都府母子寡婦福祉大会及び全体研修会「体験発表」



「ほしかいありがとう」

城陽市母子寡婦福祉連合会 小学1年生 高居 千愛
母子会ではいつも、えい会話とか、おしえてくれて、ありがとうございます。

いつもたのしく、べんきょうができて、うれしいです。前の会長にも、今の会長にもほめてもらって、うれしいです。

なつ休みに、バス、じょうようしの町調べに、お兄ちゃん、いとこのおねいちゃんと、いっしょに、町のことを、たくさん、べんきょうできました。

これからもべんきょうを、おしえてください。

「母子会の学しゅう会に行って思ったこと」

城陽市母子寡婦福祉連合会 小学2年生 今井 美咲
夏休みの学しゅう会にかよって、色いろやったけど、その中からたのしかったことをおもに書きます。

えいごの中でたのしかったことは、カードゲームでペットショップをしたことです。やりかたは、先生が店いんさんで、わたしたちがおきゃくさんでえいごでほしいどうぶつのしゅるいを言って、先生が「何ドル。」と言います。色いろなどうぶつをあつめるゲームです。わたしたちは、12ドルのお金がなくなったらゲームオーバーです。こんなふうに、えいごでどうぶつのしゅるいをおぼえるゲームです。たのしみながら、えいごがおぼえられました。

図工では、糸でん話をつくっておはなしをしました。思ったより大きくこえがきこえて、すこくふしぎでした。

算数では、紙に3この正方形が書いてあって3本の線をうごかして、5この正方形を見つけるもんだいがわたしはいんしょうにのこっています。

「今週はなにをやるのかな。」と思ってまい週たのしみでした。

またあきにも行きます。

城陽市母子寡婦福祉連合会 小学3年生 入江 史奈
学習じゅくでたくさんのお話を教えてもらいました。

この前は、そろばんを、しました。ほかにも、城陽の町調べとか、国語と算数とか、えい語とかもあります。ながしそめんとか、クッキングとかいろいろなことができてワクワクします。

楽しいです。

「母子会について」

城陽市母子寡婦福祉連合会 小学3年生 高居 勇愛
ぼくは、母子会には、赤ちゃんのときから、さんかしています。

バスにのって、しが県までふれあいの行に行き、びわ湖パレイでわなげをした後、愛のラケットをしたりして楽しい事がいっぱいありました。

モノレールにのって、上がる時は、おそかったけど下るときははやすぎてみんなもウワーと声をあげていました。

毎年、色々な所に連れて行ってもらえるので、ぼくは、毎年この日を楽しみにしています。

他には毎週日曜日に勉強を教えてもらっています。保育園の頃、僕はおちつきがなくて席を立ったりかたの人達や、お母さんによく怒られていたけど小学生になってからは前会長の松浦会長にも「しっかり出来たよ。」と、よくほめてもらえる様になってとても嬉しかったです。

舞鶴市母子福祉会 中学2年生 瀬野 彪我

僕は、舞鶴市母子福祉会の瀬野彪我です。今日は、居場所づくりでの体験談、また、自分の成長した事についてお話をしたいと思います。

居場所づくりは、毎週日曜日の午前中にあります。僕は、この勉強会に参加して5年目になります。この勉強会、最初は行きたくない気持ちの方が正直大きかったです。でも、たくさんの友達ができるし、色々な先生や友達とのコミュニケーションもとれます。この勉強会の中で一番の思い出は、小学校6年生の夏休みの自由研究です。小学校4年生の時から参加しているけど、作品ばかりで自由研究はしたことがありませんでした。理由は研究にあまり興味を持っていなかったからです。6年生になって、新しい男の先生と勉強会で知り合って、その先生に自由研究を進められました。だからやってみようと思いました。ある時思いました。僕は、電池を買いに行く時、同じ単三電池でも値段が違って値段が高いほど長持ちするのかなと不思議に思っていました。本当に安い電池がすぐになくなって、高い電池が長くもつのかなと思ったから調べようと思いました。先生と、実験方法を考えたり、用紙の書き方やグラフのまとめ方などを教えてもらいました。実験中は230分間電池の残量が減っていくのを見てるのが大変でした。

完成して学校にもっていくと、学校の先生の方から、舞鶴市小学校自由研究のコンクールに出してもらい、賞をもらいました。小学校生活での初めての自由研究で、コンクールに出してもらえたり賞をもらえたりしました。もし、この会に参加していなかったら、自分はここまでこれなかったらと思うと思います。

また、今年、英検を受けようと思い、先生に相談してみました。すると、先生の方から、色々なアドバイスをいただきました。その日から、英検の勉強に取り組み始めました。その結果、無事に合格しました。この結果を先生に報告すると、たくさんほめてもらいました。こんな嬉しいことはないなと思いながら、自分はここまで成長したんだなと思いました。今は五級だけ次は四級を目指します。

僕は、ボーイスカウトをやっているのですが、この居場所づくりに参加できないことが多くありますが、ボーイスカウトでは上級生になりリーダーとして下級生に教えて頑張っ

ています。だけど勉強も大事なので勉強の方も頑張りたいと思います。

この夏、母と一緒に東京にある電車の学校に行きたいと思いき学校説明会に行きました。一つは昭和鉄道高等学校、一つは岩倉高等学校です。どちらもすごく魅力的でした。先生の説明を聞いて今の学力では難しいという現状を知りました。今は行きたいと思う気持ちと地元の高校とで迷っています。

僕は将来、クルーズ会社か鉄道会社に就職しようと思っています。

クルーズ会社に就くには、宮津にある海洋高等学校を目指します。そこで船のことや海のことをたくさん学びたいと思っています。その先、東京にある東京海洋大学に入って日本クルーズ船の乗務員になりたいと思っています。

鉄道会社に就くには、昭和鉄道高等学校か岩倉高等学校に行き、鉄道技術を学んで、JR東日本の就職試験を受けて合格しないとダメです。

ここにくるまでどちらも大変な事は分かっています。だから、夢を諦めずに頑張りたいと思っています。

これからは遊びの誘惑に負けず、やる時にはしっかりやっけて遊びとのメリハリをしっかりとつけながら夢に向かって頑張りたいと思います。その為には僕一人では不安なので居場所づくりの先生の力を借りたいと思います。

この居場所づくりはたくさんの大人の人が関わってくれてます。いつも僕たちの勉強しやすい環境を作ってくれてありがとうございます。

これからもよろしくお願いします。

これで僕の体験発表を終わります。

「高校生になって」

福知山市母子寡婦福祉会 高校2年生 谷口 優花

私は昨年春、高校生という新たなスタートを切りました。高校生活は、中学校生活より自由が増える一方、その自分に責任が掛ってきます。社会に出る前の訓練です。勉強、部活、生徒会、毎日が目まぐるしく過ぎていきました。

そんなある日、家に帰るといつも明るい母がシーンとしていました。あと少しで夏休みという頃でした。私が「どうしたん？」と聞くと、少し間を置いてから「おじいちゃんかな、血液のガンやった。ステージは4やって。」という返事が返ってきました。母子家庭で育った私は、おじいちゃんが父さん代わりみたいな存在で、その時、母の言った言葉を受け入れる事ができませんでした。

その日から、母は急がしそうでした。昼は介護の仕事、夜はバイト、休みの日は、おじいちゃんの世話。私は不安になりました。母は今も元気ですが、2年程前までは、入院、手術を何回もしています。又病気になるってしまったら、私も弟も困ります。

夏休みに入った頃、私は母に聞いてみました。「なんでそんなにお金がいるん？」と、母は、「おじいちゃんの病院代や薬代を払わなあかんのや、お金が無いと病院も見てくれないやろ。」と言っていました。私はビックリしました。日本は色々とお恵まれていると思っていたのに、現実には厳しい状況だったので。

私のおじいちゃんは58歳です。82歳のひいばあちゃんと二人で暮らしています。82歳のひいばあちゃんの収入は、年金で、おじいちゃんは、自営業のため国民健康保険です。だから病気のため働く事が出来なくなった今、収入はゼロです。こういった経緯から、私も高校生、バイトを

始める事にしました。いざ働いてみると、働いてお金を得る事は思っていた以上に大変でした。けど、家族のために働いている自分は好きでした。きっとお母さんも、こんな気持ちで、働いているのかな、と思いました。

話が少し変わりますが、最近のニュースで、税金の横領、税金の無駄遣いが話題になっています。私は、そんな所にお金が回っている事に怒りを感じました。そういったお金は、本当に必要な事、本当に必要とされている人達に使われるべきだと私は思いました。

母は前からよく言っている言葉で、「高校はしっかり卒業して、手に職を付けな、大人になってから大変やで。」の意味もよくわかりました。私の夢は看護師。将来の自分のため、家族のため、そしておじいちゃんをもっと近くで見守ってほしいよう、夢を現実に、頑張っていきます。その夢を叶えるため利用させて頂く修学や進学を支援していただける制度、とても有り難いです。貧困を理由に子供の将来の夢が断たれる事のない時代がこの先ずっと続き、内容も、充実したものになればと願っています。将来の日本を支えていくのは、これからの私達です。全ての子供達が、平等で十分な教養、教育を受けれる事を望みます。

私は、この一年、色々な事がありました。その中で、この一年学んだ事、それは一人で生きていくのは大変だけど、みんなで支え合って生きていけば、何とかなる。絆も深まるです。これから先は長いけど、山があれば皆で乗り越えていける様努力していきたいです。

『京都府母子寡婦福祉大会及び全体研修会に参加して』

亀岡市母子寡婦福祉会 俣野 順子

年に一度開催される、この「京都府母子寡婦福祉大会」で、京都府内の会員さんや役員の方々とお会いしますが、年に一度でありながら、毎年お顔だけをお見かけする方々を、「あぁ、今年もお元気そうだな・・・」と思いながら、参加しております。

オープニング前に、会場前で、バザーが開かれますが、京都府各地の名産品や手作りのお品、ホリウチ様のお品など、出品されている品々を見ているだけでもとても楽しいです。

これだけ多くの、母子・寡婦の方々がいるのだな、と思うと同時に、皆さまとてもパワフルで、はつらつとされていて、私も元気を頂いています。

母子・寡婦を取り巻く厳しい環境が、もっともっと改善されることを心の底から願っています。





自立支援センターだより

ひとり親家庭自立支援センターでは、就業相談・生活相談を行うとともに、就職準備セミナー、パソコン講習会、家計に係る相談会、母子のお母さんのためのほっこりカフェなどを開催してきました。また弁護士による無料相談会、各地ハローワークでの巡回相談会、各市町村の担当者の方々と連携して、市町村に出向いての相談会やセミナーも実施しています。

また、自立支援センターをより知っていただくよう、ホームページやメールマガジンによる情報発信を行い、さらには、昨年9月3日(日)には「イオンモール久御山」で、11月26日(日)には「イオンモール京都桂川」で、ママ再就職・子育てフェアを開催し、事業の宣伝やいろいろな催しを行ってきたところです。

〈今後の講習会やセミナー開催予定〉

初歩からのワード&エクセルマスター (定員15名、先着順)

- ◆日時：平成30年1月20日(土)～2月24日(土)の毎土曜日 全6回 10:00～16:00
- ◆場所：京都テルサ東館2F 京都府男女共同参画センター内 ミーティングルーム

就職準備セミナー (定員8名、先着順)

- ◆日時：平成30年1月23日(火)、24日(水)、30日(火)
- ◆場所：京都テルサ東館2F 京都府男女共同参画センター内 ワーキングルーム

〈お問い合わせ〉 南部センター 075-662-3773 / 北部センター 0773-23-2771

ホームページ URL: <http://hitorioya.kyoto/>

メールマガジン 今後の実施予定の事業、相談員の声なども掲載していますのでご覧ください。毎月末に発行し、今後の事業予定などをお知らせしています。是非登録をお願いします。



Kyoのあけぼのフェスティバルに出展しました。

昨年10月21日京都テルサにおいて第29回Kyoのあけぼのフェスティバルが開催され、今回は『子どもの居場所』の様子を写真やデータでパネル展示しました。(写真参照)

来場者に対して子どもの貧困や居場所の必要性などを話すことができ、母子会の活動に理解をいただきました。更にひとり親家庭自立支援センターの紹介も出来ました。

今回のパネルは京都府大会展示分を利用しました。ご協力いただいた支会の皆様ありがとうございました。次年度は展示場所を変更し、支会毎に特色のあるパネルを作成して参加しましょう。



ホームページを活用して下さい！

奨学金・福祉の制度や相談窓口・セミナーイベントの紹介をしています。

ぜひご覧ください！ 検索ワード



賛助会員募集の取組み

わたしたちの活動に賛同していただける賛助会員さんを募集し、増やしましょう。

本会は、子どもが成長して寡婦となられた方たちが若年母子を支える力となるなど、お互いに支え合い、励まし合い、助け合って、日常生活支援事業や子どもの居場所づくり事業などにより生活支援や子育て支援に取り組んでいます。

全ての支会で新規会員の加入促進に努めていますが、不安定な非正規雇用の就労環境の下で、会員になり活動できる時間的な余裕は無く、母子会の会員加入は困難な生活実態です。

ひとり親家庭の人々へ、そしてそれらの家庭にあって育ちゆく子どもたちへ、ご理解・ご支援をいただける方を賛助会員として迎えするため会員の皆さんの賛助会員募集の取組みをお願いします。

賛助会費：一口1,000円

あ と が き

平成30年度の近畿地区母子寡婦福祉研修大会を担当するのは京都府母子寡婦福祉連合会です。大変ですが、みなさんとともに協力してつくりあげる大会です。この機会に是非参加して仲間を増やしてください。また、近畿府県市の方たちとも交流し、活動の輪を広げましょう。

あとになりましたが、2018年新年号道しるべ編集にあたり、寄稿していただきました皆様に感謝申し上げます。

ありがとうございました。
(梅田・芦田)

